固定運動遊具による
幼児の遊びの発達についての実験的研究（3）

岡本卓夫

六、固定円木

四才児

ひとりの場合、円木にいくや、両腕を円木の方向に横に張ってバランスをとりながらあがり、そのままの姿勢で少しずつ横進する。男児はしばしば落ち、これであまり遊ばず、第一三表にも示すごとく、円木を股でこすって進んだり、腹ばいなどもしてみる。だが、これらもすぐにあき、他の遊びにうつってしまう。女児は、男児よりバランスが上手で、多くは横進で遊ぶ。

二人、三人、五人とグループの人数が増加しても、彼らはそれぞれ自分勝手に円木で遊ぶかあるいは他の遊びにうつってしまう。

五才児

ひとりの場合、円木へあがる要領は四才児に似ている。やはり男児は、バランスをとることがまずく、したがって、第一三表に示すごとく、股いで前進したり、腹ばいあるいは四つ足になって進んだり、渡ったりして遊び、女児は、バランスもうまくなり、多くは円木上を前進・横進して遊ぶ。

二人組になると、男・女・混合いずれの組でも、「落しっこ」がはじまる。そして、その遊びは、活動的な子どもが一方の子どもをつき落すことからはじまり、多くの場合、活動的な子どもが強く、しかも荒々しいので、いつもつき落されている子どもはいやになり、その子どもから離れて遊ぶかあるいは円木からはなれて他の遊びにうつる。この傾向は男児に強く、女児は、むしろ手をつないで渡ったり、とびおりたりする協同的遊び（Co-oparative play）を好む。

第 13 表　ひとり遊びの種類と平均時間

遊びの種類 ＼ 年令・性	4才		5才		6才	
	男	女	男	女	男	女
股でこすって進む	12″		44″			
股いで馬とびして進む			3″			
円木を抱え、腹ばいで進む	7″		14″			
四つ足渡り			19″			
歩いて前進渡り	8″	16″	14″	40″	57″	2′07″
後進　〃			5″	4″	3″	5″
横進　〃	48″	1′22″	25″	1′10″	22″	15″
走って前進渡り				1″	4″	6″
とび下り					25″	
とびこし					12″	
そ の 他	1′45″	1′22″	56″	1′05″	57″	27″

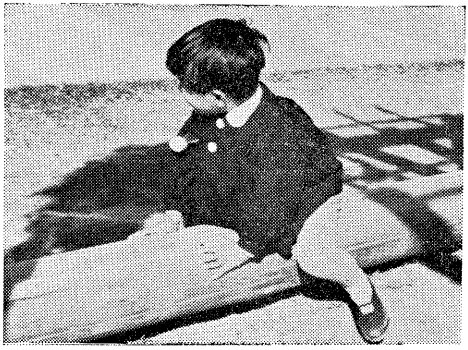
第 14 表　二人遊びの種類と平均時間

遊びの種類 ＼ 年令・性	4才			5才			6才		
	男	女	混	男	女	混	男	女	混
落しっこ	2″			37″	7″	2″	1′10″	20″	31″
場所とり								23″	
横向手つなぎ渡り					12″			31″	
前向　〃								8″	
手つなぎとびおり					3″			6″	
そ の 他	2′58″	3′00″	3′00″	2′23″	2′38″	2′58″	1′50″	1′32″	2′29″

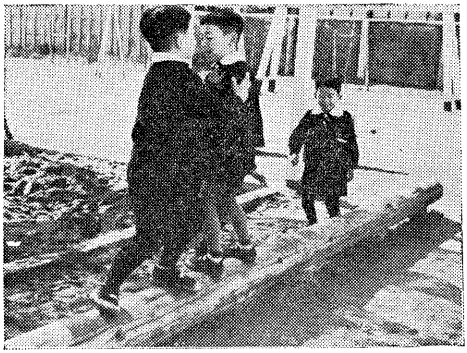
第 15 表　3 人、5 人遊びの種類と平均時間

構成	遊びの種類 ＼ 年令・性	4才		5才		6才	
		男	女	男	女	男	女
3人	落しっこ			41″	23″	1′34″	40″
	横向手つなぎ渡り				10″		28″
	手つなぎとびおり				5″		13″
	そ の 他	3′00″	3′00″	2′19″	2′22″	1′26″	1′39″
5人	落しっこ			23″	8″	44″	16″
	そ の 他	3′00″	3′00″	2′37″	2′52″	2′16″	2′44″

第 11 図　股いで進む（4才男児）



第 12 図　落しっこ（6才男児）



六　才　児

ひとりの場合、円木にあがるにもバランスを失わずじょうずにあがり、第一三表に示すごとく、四、五才児のごとき横進よりは、むしろ前進を好み、これでの遊びが多く、しかも、円木からあまり落ちない。特に男児は、円木からとびおりたり、それにとび上ったり、とび越して遊ぶのを好む。一般に、男・女児ともその遊びはきわめて活発に、スピーディーになる。二人組になると、男児組では「落しっこ」が五才児よりさらに活発となり、それも、リーダーの「落しっこせんか」という発言によってはじまることが多い。女児組では、やはり「手つなぎ渡り」など協同的遊びが目立つ。混合組でも、「落しっこ」がおこなわれるが、多くは男児が荒々しいので、女児は逃げ、それぞれ勝手に遊んでしまう。

三人、五人とグループの人数が増加しても、その様式はほとんど五才児とかわらず、遊びはさらに活発、スピーディーになる。

八～十人くらいのグループのとき、まれに「場所とり遊び」がみられることもある。

註

「場所とり遊び」とは、四、五人の二つのグループが円木に股いで腰かけあるいは立ったまま縦に向かい合い、それぞれ先頭になった子どもが「じゃんけん」する。負けると、その子どもは自分の列の後部につき、勝つと、その子どもとその組の子どもは速か

三人組の場合も、その遊びは二人組の場合に似ておるが、「落しっこ」において、つき落されるのは、いつも真ん中になった子どもで、落されたものは、いずれかの外側に回ってあがり、いつでも真ん中になっている子どもを落して遊ぶ。

五人組になっても、その遊びは「落しっこ」であるが、みんなでこれをして遊ぶ時間は少なく、多くは二、三人のグループに分かれてしておる。

八人以上のグループにもなると、誰でも勝手につき落して遊ぶので、ひ弱い子どもはすぐに退散、結局、活動的な子ども三、四人が残って遊ぶ。

に前につめ、また先頭同志が「じゃんけん」する。かようにしてだんだん場所を多くとっていく遊び。

七、シーソー

四　才　児

ひとりの場合、男・女児とも、まずシーソーにいくや、低い方の端に股いで腰かけ、じっとしておるが、しばらくして脚で地を蹴り、シーソーをコトンコトンさせて遊ぶ。それがすむと、今度は反対側にいき、シーソーを押しさげてまた同じ遊びをする。ひとりではうまく遊べないとわかるや、男児の多くは、中央にはい上って、女児の多くは、端あるいは支持台のそばに立ち、第一六表に示すごとき遊びをする傾向がある。

二人の場合、活動的な子どもが先に低い方の端に腰かけ、他の子どもは、他方の端を押しさげてのろうとする。だが、シーソーがはねあがって至極困難、特に女児はできない。だがその時、男児は中

第 16 表　ひとり遊びの種類と平均時間

遊びの種類 ＼ 年令・性	4才		5才		6才	
	男	女	男	女	男	女
中央で縦向に立ち重心を前後に移動して遊ぶ				2″	21″	24″
中央で開脚横向に立ち重心を左右に移動して遊ぶ	24″		34″	20″	59″	39″
中央で縦向、両手をついて座った姿勢で重心を前後に移動する	2″	2″	7″	8″	4″	5″
中央で開脚縦向で腰かけ重心を前後に移動する	5″		20″	12″	12″	11″
中央で横向に腰かけ重心を左右に移動する	5″		11″	2″	10″	3″
一方の側で地上に立ち手でシーソーを上下させる	4″	8″		6″		2″
中央の地上に立ち両手で交互にシーソーを上下させる	15″	3″	2″	4″		
一方の端に股いで腰かけ地を蹴ってシーソーとともにはねあがる	42″	41″	42″	44″	38″	40″
その他	1′23″	2′06″	1′04″	1′22″	36″	56″

第 17 表　2 人遊びの種類と平均時間

年令 / 遊びの種類 / 性	4 才			5 才			6 才		
	男	女	混	男	女	混	男	女	混
両端にひとりずつのって遊ぶ	2′06″	24″	52″	2′40″	2′28″	2′30″	2′52″	2′50″	2′50″
そ　の　他	54″	2′36″	2′08″	20″	32″	30″	8″	10″	10″

第 18 表　3 人遊びの種類と平均時間

年令 / 遊びの種類 / 性	4 才		5 才		6 才	
	男	女	男	女	男	女
ひとりが一方の端に、他の 2 人が反対側に腰かけて遊ぶ	1′04″	22″	53″	41″	42″	37″
ひとりが中央上に立ちあるいは腰かけ、他の 2 人がそれぞれ両端に分かれて腰かけ調子をとって遊ぶ	18″		48″	29″	50″	22″
1 対 1 の交代のり				20″	28″	53″
そ　の　他	1′38″	2′38″	1′19″	1′30″	1′00″	1′08″

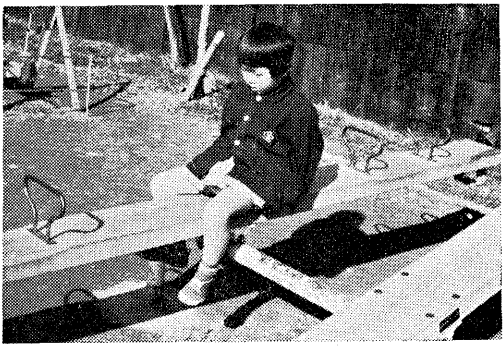
第 19 表　5 人遊びの種類と平均時間

年令 / 遊びの種類 / 性	4 才		5 才		6 才	
	男	女	男	女	男	女
2 人が一方の端に、他の 3 人が他方に腰かけて遊ぶ	33″		1′16″	58″	1′21″	1′10″
ひとりが中央上に立ち、あるいは腰かけ、他の 4 人がそれぞれ 2 人ずつに分かれて腰かけて遊ぶ			20″	13″	24″	12″
そ　の　他	2′27″	3′00″	1′24″	1′49″	1′15″	1′38″

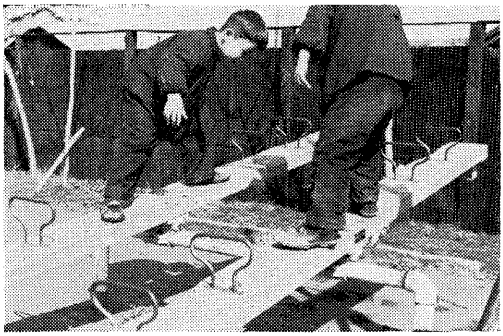
央からはいあがるなどしてそこに乗れるので、男児組なら遊べるが、女児組では乗って遊べない。したがって、混合組でも、女児が先に低い方をとると二人で遊べるが、その反対のときは二人で遊べない。(高さに関係するが)

三人の場合、まず活動的なひとりの子どもが先に低い方に腰かけ、次の子どもはその反対側へ、最後の子どもは一番先に腰かけた子どもと一しょにという具合に、三人がほとんど同時に場所をしめる。したがって、一方の側に二人が乗るから、他方の子どもはひとりで押しさげれない。そこで女児組ではこれでほとんど遊べない。

第 13 図　重心の前後移動（5才女）



第 14 図　中央開脚横立ちバランス（6才男児）



だが、男児組では中央部からはいあがるので、一対二の位置は占められるが、彼らは、まだ釣合についての理解がなく、そのままで彼らなりの遊び方をする。

グループの人数が五人になってもこれとほぼ同じ傾向で、人数増加にともなって遊びが次第に困難となる。

五　才　児

ひとりの場合、男・女ともその様式はほとんど四才児に似ておる。だが、その遊びは、第一六表に示すごとく、四才児より器用さを要するものを好み、活動も活発、その時間も長くなっておる。

二人の場合、男・女・混合いずれの組でも、何のあらそいや困難もなくじょうずに遊ぶ。

三人になると、男・女いずれの組も、四才児にみられたごとく、一対二になって遊びをはじめる。だが、うまくバランスがとれないので、リーダーがあらわれ、二人乗っている子どもの誰かに「お前真ん中にいけ」とか、「僕(私)真ん中にいく」とかあるいは「交代でのろう」などの指示を与え、第一八表のごとき遊びをする。

かかるがごとく、この頃から「釣合」に関する理解の芽生えができてくるのか、グループが五人

になっても、重さ、距離を考えて、比較的じょうずにバランスをとって遊ぶ。

六　才　児

ひとりの場合、男・女児ともその様式は四、五才児にほとんど似ておる。だが、五才児よりさらに器用さを要求し、ほとんどの子どもがシーソー上で遊んでおり、その遊びはますます活発に、活動時間も長くなっておる。

二人の場合、さらに五才児よりじょうずに、スムースに遊びが進行。

三人の場合も、その様はほとんど五才児に同じだが、遊びの進行は五才児よりスムースで遊びも活発である。

グループが五人になっても、五才児の場合と変らず、この年令では八人～一〇人くらいまでも乗って遊べる。だが、こうして人数が増加してくると、「交代のり」は全くなく、われもわれもとみんなが一しょに乗りたがり、ついにはグループが分裂するに至る。

八、雲　梯

四　才　児

ひとりの場合、男・女児とも、雲梯にいくや、多くは低い方にぶらさがり、あるいはその姿勢から脚をかけようとしたりするが、この年令では脚はかからず、ほとんどぶらさがっているにすぎない。かようなことを数回くりかえすが、手は痛いし、おもしろくないのか、この遊びをやめ、そこに立って他の子どもの遊びを眺めたり、あるいはそこを離れ、自分勝手に他の遊びにうつる。

二人以上になっても、みんなで仲よく遊ぶことはできない。

五　才　児

ひとりの場合、男・女児とも高い方へいき、その端っこから順次低い一方の端へ長懸垂で渡っていく（多くは途中で落ちる）。かような要領で二、三回渡ると、それをやめ、低い方にいき、ぶらさがったり、脚をかけたりして遊ぶ。一般的に、女児は雲梯の下側でかような遊びをするが、男児は、上側にはいあがって遊ぶ傾向がある。だが、この遊具での遊びは、手の中が痛くなるのと腕が疲れるのとでロス・タイムが多い。

二人の場合、混合組では連合遊びだが、同性組では、二人は同じ端にいき、活動的な子どもから順次一方の端へ長懸垂で渡っていったり、あるいはその子どもが「お前向こう側から渡ってこい」と他の子どもに指示を与え、第二一表に示すごとき遊びをする。だが、これも二、三回するとやめ、それぞれ自分勝手な遊びにうつる。

三人、五人とグループの人数が増加すると、男児組は勝手な遊びが多く、女児組では、第二二表に示すごとき遊びがごくわずかみられる。

第 20 表　ひとり遊びの種類と平均時間

遊びの種類 ＼ 年令・性	4才		5才		6才	
	男	女	男	女	男	女
長懸垂渡り			31″	41″	46″	55″
長　懸　垂	57″	1′03″	36″	34″	31″	39″
伏臥渡り			30″		22″	
仰　向　〃					8″	
両脚かけ逆懸垂				6″	12″	12″
そ　の　他	2′03″	1′57″	1′23″	1′39″	1′01″	1′14″

第 21 表　2人遊びの種類と平均時間

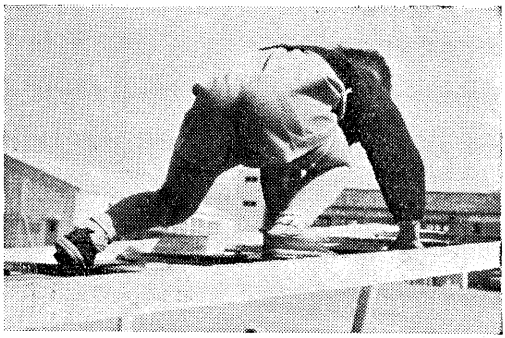
遊びの種類 ＼ 年令・性	4才			5才			6才		
	男	女	混	男	女	混	男	女	混
長懸垂渡り（ひとりがおりると次の子どもが渡っていく）				19″	50″		25″	1′03″	34″
〃（両端から向かい合って中央まで渡っていく）				20″				30″	
はさみ落しっこ							34″		
そ　の　他	3′00″	3′00″	3′00″	2′21″	2′10″	3′00″	2′01″	1′27″	2′26″

第 22 表　3人，5人遊びの種類と平均時間

構成	遊びの種類 ＼ 年令・性	4才		5才		6才	
		男	女	男	女	男	女
3人	長懸垂渡り（順番に渡っていく）				43″		59″
	そ　の　他	3′00″	3′00″	3′00″	2′17″	3′00″	2′01″
5人	長懸垂渡り（順番に渡っていく）				33″		37″
	そ　の　他	3′00″	3′00″	3′00″	2′27″	3′00″	2′23″

第 15 図　長懸垂渡り（6才女児）

第 16 図　伏臥渡り（6才男児）



三人、五人とグループの人数が増加しても、その様式は五才児の場合と同じである。

一般に、人数が増加すると、男児組はそれで元気を得、雲梯の上にあがる子どもが多くなり、勝手に遊ぶ場合が多いが、女児組では、そのほとんどが上にあがれず、したがって、渡って遊ぶことに限定せられ、みんながゆずり合って順番に渡らざるを得なくなるという結果をひき起しておる。

六　才　児

ひとりの場合、男・女児とも、まず高い方へいき、長懸垂で低い方へ渡っていく。そして、かような遊びを何回かくりかえして、腕がつかれると、今度は、低い方にいき、そこでぶらさがったり、脚をかけあるいは上にあがって遊び、五才児よりも活発である。

二人の場合、男・女・混合いずれの組も、活動的な子どもが指示を与えて遊びをリードすること五才児に似ておる。また、遊びの種類も五才児と同じで、腕が疲れてくると遊びをやめ、自分勝手に他の遊びにうつる。

予　告

幼児教育講習会

期日　昭和三十四年七月二十一日―二十五日
　　午前九時～午後四時

会場　お茶の水女子大学講堂

科目　第一部（午前）　幼児教育の理論
　　第二部（午後）　幼児のリズム指導

主催　お茶の水女子大学付属幼稚園内
　　日本幼稚園協会